

ご参加にあたってのお願い

- ・ビデオは、オン (可能な限り)
- ・ミュートを解除 (周囲の音が騒がしくない場合を除く)
- ・紙とペンをご用意ください。

**キャンプに
持っていくもの**

**キャンプ
じゃんけん**

**すき焼き
じゃんけん**

**防災
じゃんけん**

防災じゃんけん		キャンプ じゃんけん	
安全	てぶくろ・ナイフ・ヘルメット	服装	
照明	かいちゆうでんとう・ライター	灯り	
保温	毛布・衣類	宿泊	
救急	救急セット・トイレ紙	衛生	
情報	ラジオ・携帯電話	情報	
食料	水・食べ物	食事	

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
い	食事	服装	衛生	情報	宿泊		服装		情報
ろ		衛生	宿泊	食事		情報		衛生	灯り
は	灯り		情報	宿泊	灯り			食事	
に	衛生		灯り	服装			灯り		宿泊
ほ		宿泊		食事	情報				
へ	食事		服装			衛生	宿泊		衛生



安全を守る役割のヒント3つ

- ・これはケガから守ってくれます。
- ・これがあると熱中症になるのを防いでくれます
- ・これは後頭部が隠れるものがよいです



人的要因

外的要因

キャンプの装備

キャンプの安全

×

キャンプの基本装備

レクで人気のじゃんけんゲームで触れる、キャンプの装備・安全！

蒲 健吾（ラボ教育センター・東京都キャンプ協会）

【発表内容】

レクリエーションで人気の「すきやきじゃんけん」を「キャンプの装備」や「キャンプの安全」バージョンにアレンジ！ゲームをとおして、キャンプの装備にどんなものがあるのか、キャンプの安全を考えるとときに必要な視点はなにかなどの知識を整理していきます。キャンプインストラクターテキストを普通に読むだけではつまらない、でも対面ではないから実際に触る時間も限られる。今後の講習会での実施に向けたチャレンジワークショップです。ぜひご協力ください。

【詳細】13：45～14：45（60分）

- 13：45～ Zoom インフォメーション
 - 呼ばれほしい名前に変えてください
- 13：50～ キャンプに持っていくものを思い出そう（10）
 - かぶってちょーだい ○文字のキャンプに持っていくもの（2）
 - ◆ キャンプの●●なもの
 - 「持っていくと楽しいもの」「寒さを防ぐもの」「あると便利なもの」
 - ◆ 3文字 1文字
 - かぶっちゃやーよ 私のこだわり、コレキャンプに持っていく！（3）
 - ◆ 出ているものを眺める
 - ◆ このまま自己紹介（出した理由、読んでほしい名前）
- 14：00～ キャンプじゃんけん（15）
 - ブレイクアウト5人組
 - グループで以下の2つをする（3分）
 - ◆ 私のこだわりを紹介
 - ◆ お父さんお母さんお姉さんお兄さんポチを決める
 - 全体にもどる
 - ◆ キャンプじゃんけんの種類を紹介
 - 「服装」「灯り」「宿泊」「衛生」「情報」「食事」
 - ◆ 順番にじゃんけんする
 - ◆ パネルを言うと図形を外す
 - ◆ 1つそのカテゴリーのものを言う
 - 早くそらったらOK
 - 防災じゃんけんを紹介

	防災じゃんけん		キャンプじゃんけん
安全	てぶくろ・ナイフ・ヘルメット	服装	帽子・靴・軍手・長袖・長ズボン 上着・下着・雨具
照明	かいちゅうでんとう・ライター	灯り・火	ランタン
保温	毛布・衣類	宿泊	寝袋・テント・タープ・マット
救急	救急セット・トイレットペーパー	衛生	救急セット
情報	ラジオ・携帯電話	情報	天気知識
食料	水・食べ物	食事	ナイフ・調理用具

- 14:15～ 私は誰でしょう～キャンプ道具の安全を守るという役割を考えよう～ (15)
 - これから言うキャンプの持ち物は何でしょう？ (3分)
 - ◆ 3つヒントを出すのでわかった人は画面をオンにしてください。
 - これはケガから守ってくれます。
 - これがあると熱中症になるのを防いでくれます
 - これは、後頭部が隠れるものがよいです
 - ◆ 正解は～
 - ◆ このように「これがあると●●できる」のように安全をどう守ってくれるかのヒントをグループに別れて3つ考えてみましょう
 - ブレイクアウトに分かれる、
 - カテゴリーを指定するグループごとに2つ選んで考える (5)
 - 全体にもどる
 - 各グループ出し合う (10)
- 14:40～ まとめ
 - 危険は「人的要因」「外的要因」の2つのリスク要因が複合的に合わさって起こるもの
 - 安全も1つの道具で守れるものではなく、「なぜ必要か」「どう使うか」を考える人の意識によって守れるものである。
 - キャンプの安全の項目では、KYT 危険予知と起こった場合の対応についてを行うが、「キャンプの装備」も一緒に合わせて考え、テキストをより読んでみよう、道具の安全な使い方や目的に意識をもけてみるきっかけになってほしいと思いこのワークショップを実施しました。